

ほうでえ～

ありゃ～のう

周防大島町の話題

地域の医療を考える

周防大島町公営企業局の引き受けて5月22日と23日、全国国民健康保険診療施設協議会地域医療現地研究会が開催されました。

会場の大島文化センターには、全国から国保診療施設組合の職員や医療関係者が参加し、病院の概要説明のあと町内の老人保健施設や看護学校を視察。2日目は過疎化・高齢化の進む周防大島町の医療と福祉の現状を事例を交えて全体討議が行われました。「住み慣れた島で安心した暮らしを」をテーマにした発表は参加者にとって興味深いものとなったようです。



周防大島のみかん産地に新たな担い手を育成するために開催されている「周防大島みかんいきいき営農塾」の開講式が5月13日、柑きつ振興センターで行われました。今年が第7期生となる54人の受講生は退職後本格的にみかん作りをめざそうとする町内在住者から、はじめてみかんづくりを学ぶ県外の方までさまざま。1年間の作業を通してみかん栽培を基礎から学びます。

また、5月28日には「JA生き活き帰農塾」が開講しました。帰農塾は野菜作りや果樹作りなど農業を基礎から学ぶもので、月1回実習園での農作業を体験します。

農業に新たな担い手を



保育園に絵本を寄贈

就学前の子ども達に絵本を通じて活字に親しんでもらおうと国際ソロプチミスト柳井（志熊菘会長）が創立20周年を記念した地域活動の一環として5月20日、町内14の保育園・保育所に絵本を寄贈しました。

会員の経験をもとに選んだという本は童話や昔話などで各保育所に10冊ずつ配布。中保育園（屋代）では子ども達も達がさっそく絵本を広げて読んでいました。

